

（動物用医薬品）〔指定・要指示〕〔使用基準〕

豚用フルオロキノロン系抗菌剤

ビクタス[®]水溶散25%



「ニューキノロンの新しい提案」

飲水治療としてのビクタス

オルビフロキサシンの特長

- 広い抗菌スペクトルと強い抗菌力で、切れの良い治療効果が期待できます。
- 組織への移行が良好で、重度の肺炎治療にも使用できます。
- 強い抗菌力のまま糞便に排泄されるので、大腸菌性下痢症に優れた効果が期待できます。

ビクタス水溶散25%の特長

- 食欲の低下した豚に対しても、飲水による確実な治療ができます。
- 豚群単位での効率的な疾病管理が可能です。
- 飲水添加なので肥育後期でも注射痕の心配がありません。

※ 本剤は、第一次選択薬が無効の症例に限り使用すること



ビクタス®水溶散25%

VICTAS® Soluble Powder 25%



オルビフロキサシンの抗菌スペクトル

菌 種		最小発育阻止濃度 (MIC: $\mu\text{g/mL}$)				
		OBFX	OTC	KM	ABPC	TS
グラム陽性菌	<i>Staphylococcus aureus</i> 209P JC-1	0.39	0.39	0.2	0.05	0.39
	<i>Staphylococcus epidermidis</i> 8	0.39	1.56	0.1	1.56	0.2
	<i>Streptococcus pyogenes</i> A65	3.13	1.56	25	0.0125	0.1
	<i>Enterococcus faecalis</i> 2473	3.13	100	50	1.56	>100
	<i>Erysipelothrix rhusiopathiae</i> Fujisawa	0.2	0.2	>100	0.05	0.05
グラム陰性菌	<i>Escherichia coli</i> NIHJ JC-2	0.05	1.56	1.56	3.13	>100
	<i>Escherichia coli</i> P-5101	0.025	1.56	3.13	3.13	>100
	<i>Salmonella</i> Enteritidis 1891	0.025	1.56	0.78	0.2	100
	<i>Salmonella</i> Typhimurium S-9	0.05	1.56	3.13	0.39	>100
	<i>Klebsiella pneumoniae</i> 13	0.2	>100	1.56	25	>100
	<i>Proteus vulgaris</i> OX19	0.05	12.5	1.56	1.56	>100
	<i>Pseudomonas aeruginosa</i> Tsuchijima	1.56	3.13	100	>100	>100
	<i>Bordetella bronchiseptica</i> A-59	1.56	0.78	6.25	50	>100
	<i>Pasteurella multocida</i> TS-8	0.025	0.39	12.5	0.1	25
	<i>Manheimia haemolytica</i> N-881	0.05	1.56	3.13	25	25
	<i>Actinobacillus pleuropneumoniae</i> NB-001	0.025	0.2	6.25	0.2	25
	<i>Haemophilus parasuis</i> HS-2	0.025	0.39	3.13	0.2	12.5
	<i>Campylobacter jejuni</i> 10	0.1	0.78	>100	0.78	>100
マイコプラズマ	<i>Mycoplasma hyopneumoniae</i> J	0.2	0.39	12.5	>100	0.1
	<i>Mycoplasma hyorhinis</i> BST-7	1.56	0.1	3.13	>100	0.78
	<i>Mycoplasma hyosynoviae</i> E-1	1.56	0.1	3.13	>100	0.78

OBFX: オルビフロキサシン

OTC: オキシテトラサイクリン

KM: カナマイシン

ABPC: アンピシリン

TS: タイロシン

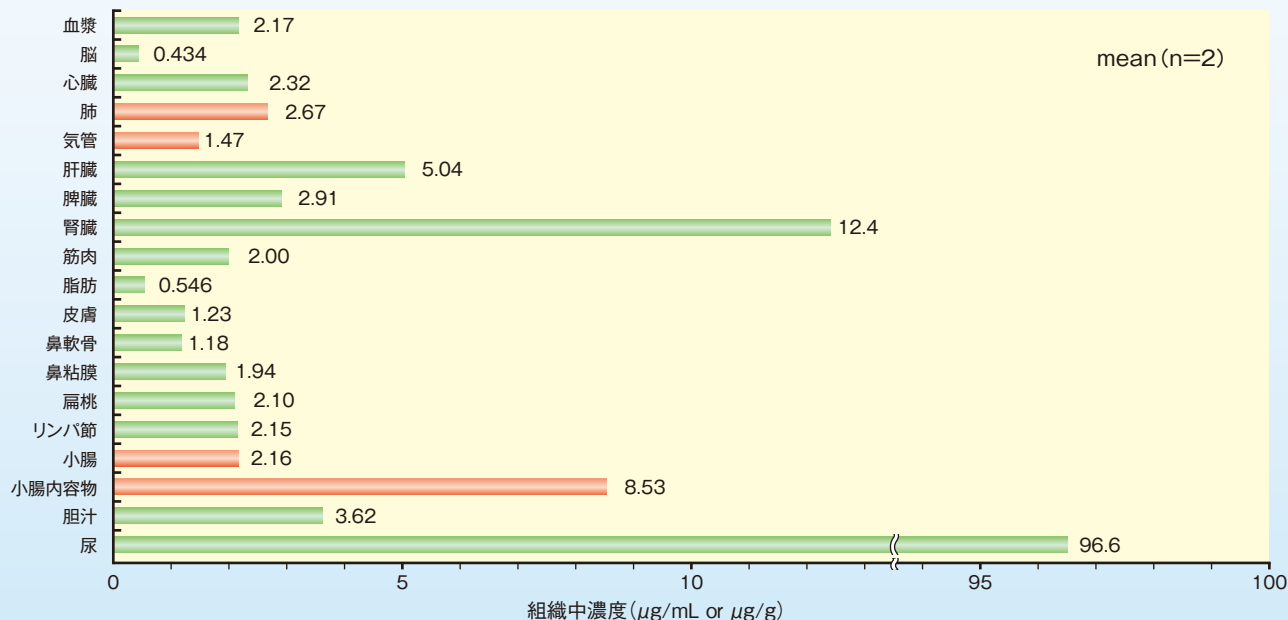
(接種菌量: 10^6 cells/mL) (物産アニマルヘルス(株)社内資料)

組織中濃度

【単回投与】

豚にオルビフロキサシン5mg/kgを単回筋肉内投与した時の組織移行性は良好で、組織中濃度は投与1時間後に脳や脂肪などを除いた全身の臓器・組織に血漿中濃度と同等もしくはそれ以上の濃度で広く分布しました。

● オルビフロキサシン単回筋肉内投与1時間後の組織中濃度 (5mg/kg)



臨床効果(1)

【マイコプラズマ性肺炎】

既存抗生物質の7日間投与が無効であったマイコプラズマ性肺炎の豚80頭に対して、ピクタス水溶散を1日1回、オルピフロキサシンとして2.5または5mg/kgの投与量で3日間飲水投与しました。その結果、ピクタス水溶散投与群では増体重および肺病変のいずれの指標においても無投薬対照群より優れた臨床効果が認められました。

●増体重の比較

薬 剤	投与量 (mg/kg/day)	投与日数	頭数	増体重(kg)	
				0~30日	0~90日
無投薬	—	—	20	12.1	54.6
ピクタス水溶散	2.5	3日間	20	12.8	55.6
ピクタス水溶散	5.0	3日間	40	18.6*	63.2

* : P<0.01で無投薬対照群との間に有意差あり

●肺病変の比較と臨床効果判定

薬 剤	投与量 (mg/kg/day)	投与日数	頭数	投与開始後7日		出荷時		臨床 効果判定
				病変面積率(%)	肺病変スコア	病変面積率(%)	肺病変スコア	
無投薬	—	—	20	14.1	2.5	9.3	1.7	—
ピクタス水溶散	2.5	3日間	20	4.2 *	1.5 *	5.0	1.3	有効
ピクタス水溶散	5.0	3日間	40	3.5 *	1.3 **	1.7 **	0.8 **	著効

* : P<0.05で無投薬対照群との間に有意差あり

** : P<0.01で無投薬対照群との間に有意差あり

臨床効果(2)

【大腸菌性下痢症】

既存抗生物質の7日間投与が無効であった大腸菌性下痢症の豚120頭に対して、ピクタス水溶散を1日1回、オルピフロキサシンとして2.5または5mg/kgの投与量で3日間飲水投与しました。その結果、ピクタス水溶散投与群では臨床改善率および下痢継続日数のいずれの指標においても無投薬対照群より優れた臨床効果が認められました。更に、ピクタス水溶散は対照薬Aの飲水投与より優れた臨床効果を示しました。

●平均下痢継続日数および平均臨床改善率の比較

薬 剤	投与量 (mg/kg/day)	投与日数	頭数	平均下痢 継続日数	平均臨床改善率(%)	
					平均下痢継続日数	平均臨床改善率(%)
無投薬	—	—	20	5.0	-49.1	
ピクタス水溶散	2.5	3日間	20	3.1		85.1
ピクタス水溶散	5.0	3日間	60	2.2		93.2
対照薬A	30	3日間	20	3.5		78.8

●臨床効果判定

薬 剤	投与量 (mg/kg/day)	投与日数	頭数	著効・有効の比率(%)	
				著効	有効
無投薬	—	—	20	(著効・有効なし)	
ピクタス水溶散	2.5	3日間	20	60.0(著効)	25.0(有効)
ピクタス水溶散	5.0	3日間	60	85.0	15.0
対照薬A	30	3日間	20	45.0	40.0

Drug Information

(使用前に必ず添付文書を読み、注意事項を守って使用して下さい。)

(動物用医薬品)〔指定・要指示〕〔使用基準〕

豚用フルオロキノロン系抗菌剤

ビクタス[®]水溶散25% VICTAS[®] Soluble Powder 25%

【成分及び分量】

ビクタス水溶散25%は、100g中にオルピフロキサシン25gを含有する。

【効能又は効果】

有効菌種

マイコプラズマ・ハイオニューモニエ、大腸菌

適応症

豚：マイコプラズマ性肺炎、大腸菌性下痢症

【用法及び用量】

1日1回、体重1kg当たりオルピフロキサシンとして下記の量を飲水に均一に溶かして3日間経口投与する。

ただし、本剤を溶かす飲水量は1日当たり8時間以内で飲みきる量とする。

豚(生後1月以下のものを除く)：2.5～5mg(本剤として10～20mg)

投薬開始後3日以内に治療効果を確認し、効果がみられない場合には獣医師の判断に基づき薬剤の変更等を行うこと。

【使用上の注意】

(基本的事項)

1. 守らなければならないこと

(一般的注意)

- (1) 本剤は、要指示医薬品であるので、獣医師等の処方箋・指示により使用すること。
- (2) 本剤は、効能・効果において定められた適応症の治療にのみ使用すること。
- (3) 本剤は、定められた用法・用量を厳守すること。なお、用法・用量に定められた期間以内の投与であっても、それを反復する投与は避けること。
- (4) 本剤は、「使用基準」の定めるところにより使用すること。

注 意：本剤は、医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律第83条の4の規定に基づき上記の用法及び用量を含めて使用者が遵守すべき基準が定められた動物用医薬品ですので、使用対象動物(豚)について上記の用法及び用量並びに次の使用禁止期間を遵守して下さい。

豚：食用に供するためにと殺する前7日間

(取扱い及び廃棄のための注意)

- (1) 本剤は、飲水に均一に溶かしてから使用すること。
- (2) 開封後は、密封するとともに、できるだけ速やかに使用すること。
- (3) 本剤を廃棄する際は、環境や水系を汚染しないように注意し、地方公共団体条例等に従い処分すること。
- (4) 使用済みの容器は、地方公共団体条例等に従い処分すること。
- (5) 小児の手の届かないところに保管すること。

2. 使用に際して気を付けること

(使用者に対する注意)

- (1) 使用に際しては、マスク等を着用し、粉じん等を吸い込まないように注意すること。
- (2) 誤って薬剤を飲み込んだ場合は、直ちに医師の診察を受けること。

(豚に関する注意)

- (1) 副作用が認められた場合には、速やかに獣医師の診察を受けること。

(取扱い上の注意)

- (1) 本剤は、1日当たり8時間以内で飲みきる飲水量に溶解させること。
- (2) 本剤の投与には、本剤を溶解した薬液を飲水に一定の比率で添加が可能な豚用自動給水器を用いること。

(専門的事項)

1. 対象動物の使用制限等

- (1) 本剤は、生後1月以下の豚における安全性は確立されていないため、生後1月以下の豚には使用しないこと。

2. 重要な基本的注意

- (1) 本剤は、第一次選択薬が無効の症例に限り使用すること。
- (2) 本剤の使用に当たっては、耐性菌の発現等を防ぐため、原則として感受性を確認し、適応症の治療上必要な最小限の期間の投与に止めること。
- (3) 本剤の使用に当たっては、病気の状態を良く観察して慎重に投与すること。

3. 相互作用

- (1) 類似化合物で、非ステロイド性消炎鎮痛剤との併用により、まれに痙攣が発現するとの報告がある。

4. その他の注意

- (1) 本剤は、ナリジクス酸高度耐性株に対して効力を示すが、フルオロキノロン高度耐性株には効力を示さない。

【包装】

100g、500g(100g×5)

製造販売元

物産アニマルヘルス株式会社

<https://www.bussan-ah.com>